



フランス製の初代レンズは太平洋戦争で破損し、現在のレンズは2代目。第1等レンズを使用する第1等灯台は全国でも5か所だけ。

光源は現在、メタルハライド電球を使用。光は36キロメートル先まで届きます。

灯台を知る

太平洋に突き出た銚子半島は灯台の聖地。まずはまもなく初点灯から145年を迎える犬吠埼灯台の歴史と魅力をご紹介します。



つくった人 | ヘンリー・ブラントン
(1841-1901)

スコットランド出身の土木技術者。明治政府に招へいされ、灯台建設を指揮。日本に滞在した約8年間で26か所の灯台を設計し「日本の灯台の父」と呼ばれています。

登録有形文化財

犬吠埼灯台

言わずと知れた銚子のシンボル

日本を代表する灯台の一つで、世界灯台100選、日本の灯台50選にも選ばれています。建設当時、銚子の人々は灯台の灯りで魚が獲れなくなると大変心配しましたが、点灯の翌年はカツオがまれにみる大漁に。人々は灯台のおかげ、と喜びました。

参観者数日本一。全国に16基ある登れる灯台で最多の年間約10万人が訪れる。

白い塗装の下はレンガ造り。19万3千枚の国産レンガを使用しています。



灯台が初めて点灯した日を示す「初点灯プレート」。明治7年11月15日、と記されています。いわば犬吠埼灯台のお誕生日です。